

令和4年度第1回 千葉県ICTアドバイザー会議 開催結果（概要）

- 1 日時 令和4年12月19日（月）10時～11時55分
- 2 方法 県庁本庁舎5階 大会議室
- 3 出席者 荒川委員、今泉委員、小池委員、庄司委員、白澤委員、宮入委員、山口委員
県：野溝デジタル改革推進局長、斎藤デジタル戦略課長
菅野デジタル推進課長、尾崎情報システム課長
- 4 議事概要 庄司座長の議事により進行

事務局からの説明

- (1) 千葉県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略の原案について
- (2) 戦略策定スケジュールについて
- (3) その他

各委員からの意見概要

【荒川委員】

- ・11月に「千葉県IT-EXPO2022」として、千葉県内中小企業向けビジネス交流会を実施した。こういったイベントを通じて、DX推進の機運を高める事例をこれから作っていききたいと思うので、県とも連携を深めていきたい。
- ・DXの推進に当たっては、人材の育成は急務であるが、簡単にできるものではない。業務対応をする者のITリテラシーを上げるための研修など、様々な観点があるので、ぜひロングスパンでの研修体系を作ってほしい。
- ・行政によるDXの推進について、自治体情報システムの標準化を2025年に迎えるため、これから自治体の支援というのが非常に大事になってくると思う。個人情報の取扱い、外部監査といった観点からも、様々なサポートをしていく必要があると考えている。
- ・ステークホルダーが多くなると、まとめるのが難しくなり、本来の目的からずれてしまうことが多くあるので、そういうところを整理していくことが非常に重要である。
- ・戦略策定スケジュールについて、これから別冊、具体的な取組を示すとのことだが、事前に相談いただけると我々も提案できるので、意識していただきたい。

【今泉委員】

- ・デジタル・トランスフォーメーションについて、「手段であって目的ではない」と入っており良いと思うが、実際に記載されている施策が基本的にはデジタル化及びデジタルイゼーションの段階に留まっているのが、少し残念である。
- ・本戦略は、県だけでなく市町村や民間団体などと取り組むということだが、戦略自体の広報について、どんなことをお考えなのか教えてほしい。

【小池委員】

- ・デジタル・トランスフォーメーションについて、「手段であって目的はない」ということを反映しており非常に良かったと思うが、DXを推進した先の目的は、トランスフォーメーションという言葉が持つ「置き換える」ということではなくて、新たな価値の創造、イノベーションだと思う。デジタルの技術を使った先に、県民の皆さんの暮らしがどう変わるのかが大切。
- ・渋谷区では地域通貨を取り組み始めており、「ハチポ」というポイントを同時に実施している。このポイントは価値交換を目指しており、地域を越えた広域連携も視野に入れていきたいと考えている。千葉県にも、ワーケーション等、法人も含めた需要があると思っている。
- ・副業人材については、副業人材として取り組みたい気持ちの根底はどこにあるのかを、きちんと確認した方が良い。

【白澤委員】

- ・全体的な課題等が、千葉県でなくても通じてしまう部分が非常に多いと思う。ICT利活用戦略策定の際に、人にフォーカスしているのが千葉県独自の部分とした経緯があった。その点に注視すると千葉県においては、人が主役である、ともに進めるDXの推進、共創共生の創出、このようなところを一番根幹に置くべきだと考える。
- ・仮説ではあるが、今後、デジタル化が進むと、人間が物理的に動いて工数をかけていた情報伝達と意思決定のところが限りなくゼロに近づくと考える。そうした際人間が何をすべきかという、いわゆるコミュニケーションであると思う。
- ・こうした前提を踏まえて申し上げると、DX推進については、シビックという意味での市民（県民）、行政、企業が連携したネットワーク型のまちづくりを行うことで、人が主役のDX推進を行うべきだと考えている。
- ・総合計画の「県政を貫く三本の矢」では、他都道府県との広域連携にも言及している。企業・市民が連携を行うに当たっては、既存の行政区域、制度を超えた改革が必要であり、横串をさせるような全体的な土台を意識してDXを推進した方が良いと考えている。
- ・ベンチャー企業の育成支援、中小企業の研究開発については、昨今知事が新しい事業の立ち上がりというのを千葉県の経済の原動力にしたいというような話も出ている。千葉県の企業連携については県内事業の育成を一つの指標として注力すべき点だと思う。
- ・民間企業、シビックテック等との連携という点においては、市民からの県政・政策に関する提案の機会創出の場として、アイデアソン・ハッカソン等のコンテンツを導入して推進いくのが良いと思う。
- ・官民を超えたデータ連携基盤の実装など、具体的な事業を進めていくと良いと思う。

【宮入委員】

- ・技術的なことも含めて、現在の課題が10年後の課題であるかは分からず、今参加していないプレーヤーも現れる。現在の課題を解決するためにデジタル化に取り組むと、遅きに失すると思う。条例、法規制などがあり、必然として、後追いになってしまうのではないかという危機感を持っている。
- ・仮置きでもいいので目的を定め、論理的に施策・方法等を思考してほしい。
- ・DXによる効率化がもたらす受益者に対する付加価値、庁内業務でのコスト削減の効果を定性的なものも含めて記録するべきだと思う。

【山口委員】

- ・千葉県も含めた行政や大企業に共通の課題だと思うが、プロジェクトの推進・横連携が不得手であると思う。プロジェクトの推進に必要なのは守護神であり、千葉県のDX推進というプロジェクトチームだと知事が守護神になる。
- ・戦略に期限を求めないという話があったが、やはり時間軸が必要になると思う。例えば、短期中期中長期ぐらいに分けて、実現するためにDXをどのように活用していくのかということを書くと、読む人もわかりやすいと思う。
- ・本日のアドバイザリー会議のように、様々な立場の方が話していると色々なヒントが出てくると思う。

【庄司座長】

- ・「手段であり目的」とよく言う言葉だが、例えば目指す姿の「行政」については、「スマート自治体」、「ニーズに合ったきめ細やかな」、「新たな付加価値」等、目的がぼんやりとしている感じがするので、もう少し具体的なイメージがあるといいと思う。
- ・渋谷区のポイント（ハチポ）に係る取組について、個人を動かすだけでなく自治体間の関係も円滑にしていくという話も非常に参考になるところがあった。
- ・県だけでなく、市町村や民間団体など様々な主体が、ともに取り組んでいくために共有するものであると記載があるため、そのような姿勢をもっとにじませたほうが良いと思う。
- ・将来を見越した投資について、個別の施策が並んでも良いが、その背景に長期的な視点や、確実に必要な基盤を導入するという観点が見えていることが大事だと思った。
- ・終期を設定を行わず、随時更新していく成長する戦略というのは分からなくもないが、随時更新していく中での更新サイクルを細かく決めておいた方が良いのではないかと。

県から

【野溝デジタル改革推進局長】

- ・本日は、委員の皆様方から様々な視点でのご意見をいただき、多様な主体と取り組んでいくことが大切ということを実感した。今後も引き続きご意見をいただきたいと考えている。